

## 平成29年度 兵庫県立人と自然の博物館協議会

日時 平成30年3月8日(木) 14:00～15:50

場所 県立人と自然の博物館 大セミナー室

### 1 開会

### 2 館長挨拶

### 3 議事

#### (1) 報告事項

ア 「ひとはくの概要」について

イ 「ひとはくの事業活動」について

(ア) 中期目標の達成状況

(イ) 恐竜化石関連事業

(ウ) Kids キャラバン&School キャラバン

#### (2) 協議

ア 「平成30年度 ひとはくの主な事業」について

イ 「第4期中期目標(案)」について

### 4 質疑・意見

#### ・博物館

当博物館は、平成4年に開館して今年度25周年を迎えた。今年は記念行事はせず、25をテーマに様々な企画を行ってきた。来年度は県政150周年ということで、いろいろ企画している。

25年を振り返ると、開館当時の貝原知事が「研究員の人事交流を活性化せよ。」と言われたことを思い出す。そのことがあり、県立大学との兼務という形を取ってもらった。以来、20名の研究員が他大学等へ転出し、同じ数の方が転入してきた。設立当時の職員の多くが、定年の時期を迎え、研究員の半数以上が既に入れ替わっている。今日ご意見いただくのは、新しい出発にちょうど良いタイミングであると思う。

ぜひ、次の新しい博物館の展開がうまくいきますよう、皆さまのご意見を賜りたい。よろしくをお願いします。

#### ・委員

予算の話がされていたが、20年前と比べて約半分になったと聞いた。活動や実績としては十分だと思うが、なぜ減らされているのか。今後、実績を出した上で増やすことはしないのか。

それから、子どもたち対象の活動をたくさん行っているのを見て、医者である私の周りで、

「ブラックジャック」を読んで医者になったという人が多い。子どもたちに、当館が取り組んでいる体験活動をさせるのは、子どもの将来に影響を与えると思う。

また、地域創生でボランティア育成の話が出ていたが、化石発掘だけでなく展示内容を解説できるような、ボランティアの育成もしてもらえないだろうか。

私自身も地域活動を行っているのだが、博物館の中でボランティア研究員のような人材を育成するしくみは、ないものだろうか。博物館の展示物が変わらないので、そんな博物館に繰り返し行く人がいるだろうか。私なら行かない。予算をかけてリニューアルし、復活した場所もあるように思うので、お金をかけることは出来ないのか。

- ・博物館

予算がなぜ減ったのかは、県全体として行財政改革を進めており、阪神淡路大震災以降、年10%のシーリングを実施している。だから、当館だけではなく県全体として、予算が圧縮されてきている。やっと、今年度くらいで底をついた。

一方で、人員も削減されている。本県は1割の人員削減を行っている。その人員削減も今年度、ようやく底をつきそうである。なので、来年度以降はお金も人も付けてもらえるのでは、と期待している。

- ・博物館

今年度から、化石発掘ボランティアの育成や、フィールド・ミュージアム構想推進事業に取り組んでいる。その中で、解説員を育成していこうという動きはある。

- ・博物館

当館にはフロアスタッフという、お客様に対応する人員がいる。その者たちが、開館日には展示解説等を行っている。至らない部分はあるかもしれないが、来館していただいたお客様に、少しでも展示内容を分かりやすく説明しようと取り組んでいるので、その者たちを活用していただきたい。

- ・委員

外国からの来館者、いわゆるインバウンド対策は何か講じているか。また、SNSの利用については、どのような取組をされているか。

- ・博物館

インバウンド対策は、何も出来ていない。多言語表示すら、出来ていない状況である。

ただ、2019年に国際博物館会議（ICOM）が京都で開催され、自然史系博物館会議の実行委員会の一員となっているので、その関係で外国の自然史系の研究員が多く当館を訪れる見込みである。

- ・博物館

当館には情報システムが導入されており、来年度その更新が予定されている。その中で、他言語への対応は検討していく予定である。

また、インバウンド対策としては、開館から25年を経て設備が老朽化しており、その対策の一環として、全館でトイレの改修を予定しており、外国人にも来館してもらいやすい環境作りを整えつつある。

- ・ 委員

フェイスブックやツイッターなどの SNS は、今では多くの博物館が採用して取り組んでいるが、ひとはくでの取組状況はどうか。

- ・ 博物館

当館では HP 内に「ひとはくブログ」を開設しており、日々の状況をそのページに挙げている。SNS の採用は特定のイベントに限っており、常時公開はしていない。

- ・ 委員

外部資金獲得の話が出たが、海外では企業からの寄付金が占める割合が高い。日本でも景気が回復傾向にあり、視野に入れるべきと考えるが、この博物館では獲得の予定はあるのか。

また、広報活動の話が出たが、神戸新聞やサンテレビで定期的にコラムなど、情報発信することはしないのか。

- ・ 博物館

当館でも寄付金獲得は検討している。日本企業は海外へ行くと寄附するが、国内ではしないという傾向がある。国立科学博物館や、科学みらい館など国立の施設は既に取り組んでいる。また、公立では三重県総合博物館が、地元の企業に協賛してもらう形で運営資金を集めている。そういう意味では、獲得に向けて頑張っていきたい。

広報については、神戸新聞やサンテレビは好意的で、館員の紹介記事など、よく取り上げられている。

- ・ 委員（当局から、企業人という立場で意見を求められる）

急きょ振られて、何をお答えして良いのか分からないが、PR というところでは、ツイッターやフェイスブックなどは、お金をかけずに出来る。企業などでは、既に導入して活用されている。見ていて思ったことは、ひとはくに HP で見かけるキャラクター（ひとはく博士）があるので、博士に面白いことをつぶやかせてはどうか。インスタグラムは、写真がなければユーザーは食いつかないが、ツイッターやフェイスブックなら、興味を示すユーザーはあると思う。

SNS では、キャラクターがしっかりしていないと、発信する人によって内容がまちまちになる傾向がある。オフィシャルアカウントでやると、正しいことを言わなくてはという、面白みのないものになりがちである。例えば、SNS を博士の顔にして、研究員の小話を少しずつ上げていってはどうか。

また、インバウンドや SNS に取り組むにあたり、これらの項目が中期目標に盛り込まれていない

感がある。いつまでに誰が何をやると決めないと、いつまでも出来ないので、自分たちでやるんだという意気込みも込めて、提案したい。中期目標に盛り込むか、もう少し短いスパンにするかは、館で検討いただきたい。

- ・委員

先ほど、寄付金の話が上がりましたが、ひとはくではふるさと寄付金を活用した、Kids キャラバン事業の充実を図っていると聞いた。それは、スタッフを増やすのか、持ち運べる展示を増やすのか、どの辺りを狙いとしているのか。

- ・博物館

最近、ふるさと寄付金は返礼品合戦のようになっており、その中でひとはくも何か案を出すと言われて、実施しているのが実情である。恐竜やコレクションなどの案も上がったが、分かりやすいということで、キャラバンを提案した次第である。

寄附募集用にチラシもつくって訪問先へ持って行っただが、返礼品が用意できないこともあり、きわめて低調である。来年度も Kids キャラバンで挙げているが、移動博物館車をもう一台買うつもりでやるのであれば、大口の所にもアプローチしていかないといけない。しかし、その辺りの作戦までは検討できていない。

- ・委員

先日（2月18日）のシンポジウムの子どもたちを見ていると、返礼品目当てでない人も数多く見受けられたように思うので、これがうまくいけばと思う。

- ・委員

高校教育に携わる者から、お願いします。資料に多数の利用者数が上がっていましたが、高校生が占める割合は小さい。今年度から入館料が無料となったと聞き、伸びしろはあると思う。高校では3年後から、大学への入試が新テストへ移行する。それに伴い、課題活動・探求活動に熱心に取り組んでいる。生物系・地学系でアドバイスをいただきたい時は、ぜひひとはくのスタッフに協力いただきたい。

もう一つは、課外活動で本校の邦楽部や吹奏楽部の生徒が、ひとはくコンサートと銘打って、こちらのサロンで演奏をさせていただいた。生徒たちには、人前で演奏したことにより自信になるし、生徒が演奏すれば友達や家族が来るので、来館者数が増える win-win の関係であると思う。今後も、このような取組を継続して欲しい。

- ・博物館

高校生が、今年度から入館料無料になったので、当館としても高校生に来てもらえるよう、力を入れているところである。今年度はその一環として、ひとはくコンサートを計3回実施した。委員の学校の時は、カブトムシの大型模型に加え、サロンに恐竜の全身骨格模型がある時期で、その前でクリスマスの演奏が行われた。ひとはくらしいイベントになっていると思う。

また、他の高校が発表会の場としてホールを活用するだとか、中学校のサイエンス・トライやる

や、高校の GSC や SSH 指定校の生徒が、当館の研究員の話を書くなど、様々な活用方法があると思う。それから、特注セミナーや講師派遣事業も実施している。当館は、拒否することはないので、いろんな要望をしていただきたい。

- ・委員

「NO と言わない博物館」ですね。

- ・委員

私がひとにはくに期待することは、研究機関としての役割である。市民活動支援や受託研究事業は、第二義的なものであると考える。研究部門に、もっと力を入れるべきではないか。ただ、それをどのように評価するかが難しい。数値目標に惑わされることなく、本来の研究を続けていただくことが、重要ではないかと考える。

職制を見ていると、研究員が事務職を兼ねている感じがする。私は、それはちょっと違うと思う。やはり、事務は事務の専門家が職制に基づき処理すべきであり、研究員は研究に専念すべきだと考える。

- ・博物館

当館では、職員に占める研究員の割合が非常に高い。当館へ来て驚いたのは、研究員がデスクワークや事務処理を行っていることだった。ただ、今後のことを考えると、マネジメント出来ることは、今後役立ってくると思う。基本的には、きちんと棲み分けをして事業を進めるべきと考える。

- ・博物館

研究者への応援の言葉は、ありがたい。博物館の発言にもあったとおり、マネジメントできる研究者の育成が大事であるとする。マネジメントできる研究者が、どんどん出てくるよう、我々も頑張るので応援よろしくお願ひしたい。

- ・委員

2点申し上げたい。1点目は、キャラバンに関することである。研究員から事業の説明があったが、子どもたちに夢を与えているほか、来館者としてきてもらう動機付けとして役立っているとの発言があった。これまで、ひとにはくはこの事業に力を入れてやってきたが、その成果をまとめた論文が出せないだろうか。私が在籍していた頃から、やらなければいけないと思いつつ、着手できなかった部分である。ぜひ、その部分にも力を入れていただきたい。そのことによって、他の博物館や県へのアピールにもなるので、お願ひしたい。

2点目は、中期目標についてである。今回追加された項目もあったが、在籍中はどうすれば博物館の活動を効果的にアピールできるかを考えていた。学校教育支援については、かなり力を入れて取り組んでいた分野だと思う。既に頑張っている分野について、評価に盛り込んでいくことがあっても良いのではと思う。質的評価についてであるが、重要であるがこれまで十分出来ていなかったと思う。今年度ようやく25周年を迎えたが、今度は30周年に向けて考えていかなければならない。その時に質的評価について、もっと PR した方が良いと思う。ひとにはくの成長とともに、関わった

個人や地域の成長もわかる。私は、じっくり型キャラバンに取り組んでいた。時間がかかるものにじっくり取り組むので、成果や効果が表に現れにくい。30周年に整理をする際、そのあたりの質的評価を盛り込んで欲しい。

・委員

今の件について、委員にはぜひ共同研究という形で関わっていただきたい。

30年前にひとはくのファンだった子どもたちが、どういう専門に進んだか追跡できると、面白いのではないかと思う。

・委員

先ほど、パワーポイントで化石の資料が山積みになっている様子を、見せていただいた。博物館の役割の一つである資料収集について、次の中期目標にそのビジョンを盛り込む予定はないか。また、今後どう考えているか。

・博物館

非常にたくさんの資料を集め、収蔵庫が満杯状態である。その中で、一つは今ある資料を展示などに活用し、効果的に魅せることに力を入れた、新たな収蔵庫の計画も策定中である。規模や予算については、確定していないが、館内では検討を進めている。

・委員

資料について、もっとオープンに使えるようにする予定はあるか。奥の院にあるような資料を、もっと手軽に使えるような方策は、何か考えているか。

・博物館

来年度から、収蔵資料展ということでどんどん出していこうとしている。松本委員の発言は、井戸知事と同じである。知事は、「ひとはくは資料をたくさん持っているが、しまい込んで見せない。」といつも発言している。

・博物館

先ほど紹介いただいたが、コレクション展の開催を企画している。次年度は、江田コレクション展を実施予定である。例えば、昆虫は100万点を超える資料を有しているが、この企画を通じてそれらを整理して展示可能な形にしたり、キャラバンで使える形にしたりする作業を進める予定である。

また、今年度は25周年のタイアップ企画として、全ての収蔵庫を来館者に見ていただくツアーを実施した。その際、車いすで参加された方には、棚を出来るだけ狭い間隔で資料を入れているため、通行に支障を来した場面があった。館員佐からもあったように、魅せる収蔵庫といった形で、気楽に誰でも当館の標本にアクセスしてもらえるような場を、ぜひ実現したい。

## ・委員

ひとはくは研究博物館で、31名もの研究員が自分の研究テーマや顔まで出している。これは、あまりないことである。私の勤める博物館では、学芸員の顔や名前が出ているデータはない。考古博物館や陶芸博物館にもない。展示が顔代わりになっている。この博物館は、研究員の研究テーマが顔になっているのが特色である。31名の研究員が世代交代を経たり、大学を移られたりを繰り返しながらやっておられるとのことで、その研究員の元気さが、この博物館全体を支えているのだと思う。

それにもかかわらず、キャラバンや有馬富士公園の事業のように、集団で取り組んでいるテーマもある。それぞれの研究員が3つの研究部に所属しながら、いくつもの事業に取り組んでおられるよう見受けたのだが、各自いくつくらいの仕事を抱えているのか。また、どんな会議や連絡調整をしているのかが全く見えない。それは、組織図に書かれていることだけではいかないと思う。もっと、縦割り斜め割りのようなことをしていると思う。各研究員がしっかり動いている背景として、どれだけの連絡調整の機会を持っているのかなど、研究員間のネットワーク形成の状況を、目に見えるデータとして持っておき、過程が点検できる仕組み作りにチャレンジしていただけないかと思う。

## ・博物館

研究員は膨大な数の仕事を抱えている。人によってもかなり違う。いろんなプロジェクトをどのように進めるかは、月2回の経営戦略会議で意思決定をしている。ただし、月2回の会議だけでは細かいことは決められないので、それ以外にもありとあらゆる機会を使って、会議を行い、事業を実施している。どのくらい会議をしているかについては、今までデータを取ったことはないが、かなりの数を開催している。先ほどその辺りのデータも取ってみては、との提言をいただいたので、一度取ってみたいと思う。

## ・委員

お話を伺って、人もお金も場所も限りある資源の中で、精一杯されていることがよく分かった。子ども向けの体験型キャラバンから、マニアが喜びそうな詳細な研究内容まで、幅広い活動をされていると想像した。

私がひとはくと出会って十数年になるが、「人と自然の博物館」という名前を聞いて、すごく素晴らしい名前だと思った。科学館や自然科学館というだけでなく、設置目的にもあるように、自然の摂理・生命の尊厳・人と自然の調和した環境の創造を、幅広い分野から取り上げている希有な館だと思っている。先日、SDGs という国連で採択された、持続可能な開発についての勉強会に参加した。日本では、大阪万博にもこれを還元させようという気配があるとか、企業のCSR活動でも注目されている。私も、キッズプラザでこの取組について、子ども向けに何か出来ないかと考えている。持続可能な開発は、人と自然が調和した環境を創造することと密接だと思った。今の日本人と同じ生活レベルを、全地球上の人が続けたら、地球が2.3個必要だとか、かなり危機的状況にあることを知りつつ、どうしたら良いか分からないのが、一般人の認識だろうと思う。

ひとはくで、SDGs について何か取り組んで欲しいわけではないが、ここに細かく専門的な取

組を数多くされているので、なぜ人と自然が大事なのかを、改めて考えるような展示があればと思う。今現在、恐竜といわれてもあまり関心が持てない。でも、なぜ恐竜の研究が大事なのか、それが何か私と関わりがあるのかが分かれば、恐竜に関心を持つかもしれないと思った。きっと、地球上の全ての命が繋がっているんだよ、大事なんだよということが、強いインパクトを持って伝わればと期待している。

私の今の関心事としては、ここにある専門家の深い研究があると思う。それはSDGsの開発目標でも、17の目標が全てシステムと関連し合っているのが肝なので、ひとはくの研究もそれと同じものがあるのではと思う。ぜひ、新たな形での研究や展示を見せていただければと思う。

- ・ 委員

最後に私が言いたかったことを、今ほとんど言われてしまった。ひとはくは、最近自然の方に大きく軸足を移している感がある。開館当時は人に関する展示もあったが、25年前と同じ展示が残っている。やはり、人との関係というものを、予算の厳しさが取れるというのであれば、人との関係・人の暮らしについての取組を、次の中期目標の中に盛り込むよう、意識していただければと思う。

- ・ 博物館

SDGs、ぜひやらないといけない。東京オリンピックの会場でも、4つくらい取組があった。ここもいろんなこと言っているのでも、全面的に対応することが大事だと思っている。

31人の研究員が一人歩きしているが、実は定数が40人分ある。兵庫県は、まだ欠員にしている。私は40人の定数を目指して、作業を進める。研究員が40人になるよう、応援をお願いしたい。

本日は、様々なご意見ありがとうございました。